

世界大会へのロシア人およびウクライナ人選手の参加について

KIF は、本年 5 月に予定している第 6 回世界空道選手権大会および第 3 回世界空道ジュニア選手権大会に、ロシアの選手およびウクライナ選手の参加の可能性を模索してきました。

年明け早々に、KIF の理事と空道ヨーロッパ委員会の委員、および世界大会の主催者である全日本空道連盟の理事に、次のような問いかけをし、ロシアからの選手および審判員の参加について、非公式に意見を伺いました。またウクライナについては、KIF による費用負担のもとで招待することで調整を進めてきました。

残念なことに現在、「スポーツと政治」とは異なるという大原則が、ロシアによるウクライナ侵攻によって失われています。しかし、ロシア国民だからという理由で、世界大会への参加の道を閉ざしてしまってよいのでしょうか？ 空道に真剣に取り組んできた仲間を、国の問題によって排除してしまってよいのでしょうか？ 空道が、スポーツのひとつの理想を追い求める者になれないのでしょうか？

ただし、戦場で両国の多くの命が失われているのが現実であり、ロシアの選手の参加を無条件に受け入れることは、様々な意味から無理があると考えます。

そこで、いくつかの条件の下にロシアの選手の参加を認めることについて、皆さんはどのように考えますか？

その後、2 月末に、KIF および全日本空道連盟の理事会を開催し、正式に意見を聴きました。理事会の議決結果は、先に報告した通りであり、圧倒的多数により、KIF からの提案を承認していただきました。

コロナ禍はようやく収束の兆しを見せていますが、残念ながらウクライナの地における戦争は続いており、多くの尊い命が失われています。ロシアという国に対しては、西側諸国を中心に制裁が続けられ、スポーツ界においてもこの 1 年は国際大会からロシアおよびベラルーシの選手の参加を排除することが続けられました。

しかし、オリンピック憲章では、次のように謳われています。

- スポーツをすることは人権の 1 つである。すべての個人はいかなる種類の差別も受けることなく、オリンピック精神に基づき、スポーツをする機会を与えられなければならない。
- スポーツ団体は、スポーツが社会の枠組みの中で営まれることを理解し、政治的に中立でなければならない。スポーツ団体は自律の権利と義務を持つ。
- このオリンピック憲章の定める権利および自由は人種、肌の色、性別、性的指向、言語、宗教、政治的またはその他の意見、国あるいは社会的な出身、財産、出自やその他の身分などの理由による、いかなる種類の差別も受けることなく、確実に享受されなければならない。

日本を代表する文化のひとつに、茶道があります。茶道は武士が愛した文化ですが、空道や柔道などと同様に、「道」という文字が使われています。典型的な茶室は四畳半(約 3m 四方)という狭い空間であり、この中でホストがゲストに茶を振る舞いますが、茶室は神聖な場所であり、この中では皆が平等だというのが、茶道における重要な精神のひとつです。茶室の中では、身分や職業、人種、国籍などによる差別はありません。

日本が発祥の地である空道においても、試合場に上がったら、どの国の選手であるかよりも、空道を愛する一人の選手であることをリスペクトしあいたいものです。空道の「空」という文字は、こだわりなく、あらゆるものを受け入れるという意味を持っています。難しい時期に開催される世界大会ですが、この空道の理念も改めて認識しあいたいと願っています。

空道ウクライナも空道ロシアも、日本と一緒に空道を発展させてきた仲間です。連盟として、この世界大会に両国から選手が出場できることを願って調整し努力しています。

出場が実現した際には、彼ら・彼女らが、空道を競い合う場に集中できるよう、すべての皆さんにご配慮をお願いいたします。

2023 年 3 月 27 日
KIF 理事長・全日本空道連盟理事長
高橋英明